



2011/8/1 No.57

発行者：社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会

本 部：〒293-0023 千葉県富津市川名1436番地

千葉県の宝



常務理事

井本 義孝

十年度に全国の児童相談所で扱った虐待件数は約五万五千件、前年度の二十八%増しと新聞は報じています。平成十八年三月千葉県は子供、高齢者、障害者など対象者を横断的に捕らえた地域福祉支援計画を作りました。(健康福祉千葉方式)と言われています。「中核」とは「中核地域生活支援センター」の略称で福祉政策の要に当たります。その特徴は一言で言えば、理不尽な理由でつらく悲しい思いをしている人が、独りもいないように当事者に寄り添って問題解決に当たるという今までにない画期的なものです。その為に県下十四圏域のネットセンターを民間が受託し、①権利擁護、②相談、③地域総合コーディネートに大別される事業を行うものです。当法人は「君津ふくしネット」を開設し、袖ヶ浦、木更津、君津、富津、四市を圏域としています。職員は二十四時間、三百六十五日、何時でもどこからでも、相談に応じられる体制を取っています。失業、リストラ、貧困、虐待、崩壊家庭、ひきこもり、金銭トラブル、等々様々な問題が持ち込まれます。

日本全国にかつてこのような組織で、地域に住む人の課題に対応した行政がありましたでしょうか。国も地域の課題解決、市民のセーフティネット作りの重要性に気付き近年(地域包括支援センター)の設置を市町村に義務付ける

ようになりました。しかし、専門職員など人材の不足から、「中核」とは相当の落差があり、県行政の役割は大なるものがあると言えましょう。「中核」を第一の宝としますと、第二の宝は平成十八年七月に施行されました「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」です。難産の末誕生したと言われていますが、日本で初めて出来た条例で、その内容はハンデある人々の励ましと慰め以上に、健常者と称する人々に大きな反省が促されます。

さる七月十日には中核連絡協議会主催による講演会とシンポジウムが行われ、主題は無縁社会からの脱却・地域の再構築とし、湯浅誠氏の演題は「なぜ新たなセーフティネットが求められているのか」なるもので、シンポには毎日新聞社論説委員 野沢和弘氏がコーディネーターとして「地域でセーフティネットを構築するために」のテーマの下に四名の方々が討議され、四二〇名以上の方々に多大の感銘を与えられました。現代社会は一見、物が満ち溢れいかにも豊かであり、生活全般が便利さとスピードを求め、快適である反面、かつてないほどバスの乗り遅れた人々が多数存在する社会となっていました。現実、もはや一人暮らし世帯が三割を超え地域社会の助け合いづくりが待ったなしであること。そしてそのネットづくりのお手伝いをするのが私たちの「中核」なのです。行政の縦割り、単発的対応でなく、横断的、総合的に課題を捉え解決する役割なのです。これこそ二十一世紀に相応しい福祉機能ではないでしょうか。これは千葉県福祉行政の宝、財産です。私たちはこの芽を出したばかりの双葉をしっかりと育てていく集団的責務があります。

バザー報告

望みの門バザー実行委員会

六月四日(土)今年も望みの門バザーは多くの皆さまの温かいお心に支えられ開催されました。開店直後から子どもたちの列が途絶えなかった「ゲームコーナー」の様子を新藤紀子臨床心理室室長にレポートして頂きました。

バザー会場で子どもの声が響く一角がゲームコーナーです。特賞から四等賞までの賞品が山と積まれている傍らで子どもたちが輪投げに挑戦しています。とりあえず一等を狙って投げる子、賞品を一度吟味してから欲しい賞品の賞を狙って輪投げをする子もいます。また、自分から進んで遊ぶ子、お母さんに促されてようやく遊ぶ子、友だちがやるのを

望みの門バザー収支報告書

単位：円

収 入		支 出	
中古衣料	226,445	材料費	338,771
雑 貨	652,216	雑 費	458,001
ベーカリー	155,190	テント購入	359,800
屋 台	376,500	義 援 金	300,000
喫 茶	132,260	法人寄付金	500,000
手芸・新品	156,260	次期繰越	84,786
その他収入	76,350		
寄 付 金	266,000		
利 息	137		
収 入 計	2,041,358	支 出 計	2,041,358

以上のとおりご報告いたします。

見てからようやく決断する子など様々です。一回百円。三本の輪を全部棒にかけられたら一等賞。それが二度続けば特賞です。二本入れば二等賞、一本なら三等賞、全然入らなければ四等賞。賞の書かれた紙を受取って賞品コーナーで好きなものを選びます。床に並べた賞品に輪がかかればそれがもらえます。輪を受け取る時の期待に満ちた顔、投げる直前の覚悟を決めた顔、輪がかかった時の満面の笑顔、また外れた時のがっかり顔、外れても次の一投にばっと切り替わる子もいれば、その失敗が尾を引いて次も失敗してしまう子、要領のいい子や悪い子など、輪投げという単純なゲームのやり方にも子どもたちの個性が見え隠れします。

身近にいる大人がその個性豊かな子ども、どの顔を見るかによってその子への働きかけが変わってきます。そして、その働きかけの違いによってその子が変わってきます。子どもが「見せたい顔」ばかりを見ていてはその子の成長は偏ってしまふでしょうし、「見せたくない顔」ばかりにかかずらっているとひねくれてしまうかもしれません。

いい顔も悪い顔も両方しっかり受け



とめてもらうことで子どもは自分自身を受け入れ、自信をもった人になる成長してくれるのではないのでしょうか。それは「なんでもできる自分」ではなく「××は難しいけれど、○はしっかりとできる自分」という本当の自信です。



今年もバザーも

尊い献品・献金をして下さった方々、ボランティアのご協力を下さった方々、当日ご来場下さった多くの皆さまに支えられ盛大に開催できたことを感謝申し上げます。

また今回は売り上げの一部を東日本大震災の復興のため寄付させて頂きました。被災されました皆さまのうえに平安がありますよう心よりお祈りいたします。

ミッドナイトミッションのぞみ会 創立五〇周年記念構想委員会

法人事務局長 西尾 建

当法人の歩みは、神様に導かれ、皆様のお祈りとお支えによって法人設立認可から来年で五〇周年を迎えることになりました。

先般、理事・評議員会においてこの記念事

業のための構想委員会を発足させることが提案され、承認されました。

委員会には役職員の他に地域の方、後援をしてくださる方等にも参加していただく法人初の試みとなります。この委員会を経て、実行委員会に企画をバトンタッチして充実したものを作り上げていきたいと思っています。

ここに、構想委員会が出されたご意見の一部についてご紹介させていただきます。記念事業としての構想の方向性が示されたのではないかと感じています。読者の皆様からご意見をお寄せいただければ幸いです。

・社会保障の重要性が増大されるなか、当法人のあり方はどのようにあるべきか。単なるイベントとしての記念事業ではなく、法人の今後の展望に繋がるものとしたい。

・過去の五〇年の歩みに対する感謝とこれからの五〇年の歩みに対する希望を表明すべき。

・新設する特養ホームを記念事業として位置づけ、施設名も公募したらどうか。

・地域に受け入れてもらっていることへの感謝と地域との交流や地域への情報発信を促進すべき。(記念としての拡大版バザーの開催、地域への記念品の寄贈、施設開放日の実施 等)

・働く職員の士気も向上するようなことを企画することが良い。(親睦旅行、記念品贈呈、特別休暇の付与 等)

・福祉講演会の開催(キリスト者、創立に関わった方、福祉の著名人 等)

望みの門紫苑荘・法人事務局
望みの門楽生園・望みの門在宅三部門

ISO9001・2008

維持審査に合格！

本部囑託 菊地 正弘

去る五月十一日、MICC(ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社)の維持審査を受け合格しました。

維持審査は毎年継続実施されるもので今回は、紫苑荘と法人事務局が指定されましたが、内容的には楽生園・在宅三部門も含まれ、全

部門対象の審査となりました。審査の結果は、①不適合一件(軽微・一ヶ月内に対策)、内容は、短期入所生活介護サービスで、一部の利用者に入入れ時の書類不足がありました。

②観察事項一件(次回維持審査で再確認)

③推奨事項五件(特に対策強制なし)の指摘を受けました。不適合の対策は、六月八日付けで文書回答しました。

また、特に評価できる点として長期入所生活介護サービスでの統計的手法の活用等三件上げて頂きました。

これまでの本審査・更新審査(各一回)と維持審査(二回)及び内部品質監査(八回)でも、不適合は摘出されませんでした。

しかし、今回の不適合は、従来から潜在していたものであり、今後この種の不適合ポテンシャルは、我々の内部品質監査でも摘出できるように内部品質監査員(現在二十名)のレベルアップを図ってまいります。

また、内部品質監査員のOJTとして、それぞれの工程で行っている実作業と、マニュアル類の記述内容及び使用している様式類がマッチしているか、詳細に見直しをして、きめ細かな品質マネジメントシステムの構築に努めてまいります。

望みの門コミュニティホールだより

合気拳法「初級」の審査会を終えて

合気拳法指導員 新藤 紀子

昨年五月に武道教室がオープンしてから一年がたちました。剣道・空手・合気拳法それぞれの教室では、かずさの里の子どもたちを中心に練習が行われています。

合気拳法では五月二十八日に初めての審査会が行われました。

合気拳法は本来八級から始まりますが、その八級に入る前に合気拳法の基礎的な動きを

習うための「初級」を設けています。

八・七級から三つずつ技を集めたいいわゆる入門コースで、

技は①打込首投、②胸捕首投、③小手返し、④小手返



し逆手捕、⑤突込投、⑥突込小葉返しの六つです。

今回は教室開設当初より熱心に練習している三名の子どもたちが受け、三名とも優秀な成績で合格しました。

この一年間、新規にスタートした武道教室として、指導員も門人も一番苦労したのは、「先輩のいないこと」ではないかと思っています。それは「先生」ではなく、一人の「門人」としてどういう姿が望ましいのかというお手本が全くないということです。

本来先輩がいれば見て習うことができるので、わざわざ言う必要のない指導もたくさんあります。今回三名の先輩が誕生したことで、四月から入門してきた後輩も先輩の姿をお手本に今後初級合格を目標に練習に励んで欲しいと思います。

また、今回合格した三名は現在八級合格に向けて頑張っています。中には早々と帯の色が緑色に変わる六級を目指している子もいます。同じことをしていても一人ひとり個性も特徴も違います。

みんながそれぞれ自分で決めた目標に向かって進もうと輝いていることが指導者にとってのなによりのご褒美です。

興味のある方は是非一度見学に来てください。指導員一同お待ちしております。



婦人保護施設 望みの門学園

学園版サマータイム

園長 田尻 隆

暑中お見舞い申し上げます。学園では昨年の夏ファーム班が朝五時に作業を開始し、午後は自由時間とする学園版サマータイムを試行しました。

ファーム班の感想はおおむね良好で、朝のすがすがしい空気は富津の潮風がまるで軽井沢のそよ風のように感じられ、朝採れ野菜の並ぶ朝食は自然の恵みにあふれています。暑い午後は洗濯をしたり早めのシャワーを使ったりとそれぞれにゆとりが過ぎることができたようです。それならと今年はこの学園版サマータイムに職員も乗ることにしました。もちろん朝五時出勤というわけにはいきませんので、出退勤を一時間前倒しします。

夏季に地方時間を一時間進めるサマータイム制度は欧米を始め世界の五〇カ国以上で導入されています。この制度は夜の人工照明にかかる電力を節約しようとする省エネルギーの思想から出発したのですが、現在ではライフスタイルの変化からゆとりある生活の実現や戸外レジャーの普及等による経済効果が付加されています。

特に今年は東日本大震災による夏季の電力不足対策として注目され各業界の企業も積極的に導入しています。一方、就業時間を一時間前倒したところで日中の電力需要は変わらずサマータイム効果を疑問視する企業もあるようです。

るようです。

とはいえ私たちにとって仕事から早く解放されプライベートの時間が増えるのは確かだ。「仕事以外の生活を楽しむ好機」と捉えれば気分も爽快になるメリットがあります。デメリットとしては睡眠の問題が考えられます。日本人はアジアの中で最も睡眠時間が短く六時間以下の人が四十一％にのぼるそうです。乳幼児や子どもも同様で他国と比べると短く、これは夜型になった大人の影響が大きいとのこと。サマータイムによって時計の針が一時間進んだ分プライベートに充当してしまえば睡眠不足をますます助長させることが考えられます。けれどもこれはもともと睡眠時間を考慮し消灯時刻を設定されている利用者にはあまり関係ないようで、問題は職員の時間に対する管理能力になるのでしょうか。

さあいよいよ夏本番です。私たちは太陽光、風、流水、潮汐、地熱等、神さまからの恵みである自然エネルギーにさらに感謝し、睡眠も十分にとり、明るく元気にこの夏を過ごしていきたいと思います。



養護老人ホーム 望みの門 紫苑園

今年の夏は……



施設長 白鳥 正道

はじめに、今回の東日本大震災により、被災された多くの皆様に心よりお悔やみ、お見舞いを申し上げます。

四ヶ月が過ぎまだまだ厳しい状況をニュースで知る度に、一日も早く心穏やかに休める日が来る事を願ってやみません。

さて、七月に入り梅雨はいつたいどこへやら、気づかないうちに梅雨が明けてしまいました。個人的に梅雨といえば雨、紫陽花、カタツムリというイメージが強いです。しかし今年は雨にぬれた紫陽花を見た覚えがありません。

六月には園から菖蒲の見学に袖ヶ浦公園へ行きましたが、菖蒲もスイレンもジャストタイミングといったところ、見ごたえがありました。

紫陽花の見ごろには少し早いようでしたが、様々な楽しみ方があることを改めて実感しました。

菖蒲を見に行っただけなのに、それには目もくれず、お尻を向けてしゃがみこんでいる人を発見。何をやっているのかと思えば、辺りに咲いているどくだみに魅せられて、一心不乱にお土産をこしらえているところでした。育てても、食してもいいのだそうです。「以前は乾かして葉にしたのよ」と仰せでした。別の場所では、菖蒲の間を抜けて勢いよく

風が通り抜けた途端、麦わら帽子がフワッ(まるで映画のシーンのように)、見事に池の真ん中に着地。「あーあ」と見送って「やっちゃった」と苦笑い。個々に季節を肌で感じる事が出来た思い出に残る外出でした。

今年の夏は原子力発電所被災により節電と快適さの確保が重要課題です。こまめな水分と塩分の補給が重要です。幸い海のそばにあるせいか、比較的気持ちのいい風が園内を通るため今のところ、エアコンがなくてもどうにか過ごせています。

しかしこれから訪れる本格的な夏に向け、暑さ対策に奔走しているところです。

第一段階、今まで使っていたヨシズを設置し、遮光ネットとゴーヤも追加し日陰作成の工夫。あとはエアコンを使いつつ：やはり欠かせません。節電対策は他にもアイディアで紹介されています。

第二段階ではそれらを積極的に取り入れたいと思います。高齢者は体力の弱い方や、汗をかきにくい方など特徴的です。体調を壊さないようお互い注意し合い、協力してこの夏を乗り切りたいと思います。



特別養護老人ホーム 望みの門 紫苑荘

望みの門 紫苑荘の取り組み



副主査生活相談員 飯田 篤史

六月十五日の新聞報道では、参議院本会議の可決により、改正介護保険法が成立した旨の記事が掲載されていました。

主な内容と致しましては、①地域包括ケア構想の推進②二十四時間介護サービスの導入③介護福祉士のたんの吸引が可能に④成年後見人の育成⑤介護保険料上昇の抑制⑥介護療養病床の廃止延期があります。

しかし、増加する介護給付費(平成十二年の二倍以上の七三兆円)の財源確保問題、介護職員の改善交付金などについても検討課題となっています。ただ、現時点では、まだまだ不透明な点も多く、今後とも注意深く見守っていく必要があります。

当施設におきましては、今まで『たんの吸引』は医療行為であり、看護資格を擁しない介護職員が行うことは違法になるため、必ずご家族様より『たんの吸引を行う方への同意書』に署名・押印を頂いてから実施していました。

介護現場において、食事を上手に飲み込めなかったり、急いで食べたりして誤嚥の可能性がある方、睡眠中に唾やたんが口内に溜まってしまふ方は少なくありません。

たんの吸引等が必要な方々に対して、必要なケアをより安全に提供でき、利用者様と介護職員の双方が安心できる仕組みになること

は非常に大きな発展であります。

このことに先駆けて、施設内でも看護職員が講師のもと、介護職員に向けた『吸引機取扱研修』を二月より数人単位で数回実施し、来年四月からの改正介護保険法のスタートに備えております。

最後となりますが、これからも利用者様の目線で、寄り添いながら温かい介護を職員一同目指していききたいと思います。

老人デイサービス事業 望みの門デイサービスセンター

丈夫な身体づくり



看護師 保坂 恵子

東日本大震災から五ヶ月が経ちました。多くの問題を抱えながら復興が進んでいます。高齢で介護サービスを受けていた人が、デイサービスが休止された為、自宅で過ごすことになり、身体を動かさなくなったことで、足首が曲がらなくなり、歩行が困難になった等、報告されています。

身体を動かさずにいることで筋肉が衰え全身の働きが低下する、いわゆる「生活不活発病」が広がるのが心配されています。

お年寄りの場合はいったん身体の働きが衰えると、元に戻すことが難しいのです。一刻も早い介護サービスの再開を、お祈りするばかりです。

例えば、当デイサービスセンターで、一番のご高齢は、一〇四歳の女性です。

この歳にして、デイサービスを利用できる

体力には、敬服いたします。でも、近頃は車椅子でのご利用ですが、ご自宅より出て、身体を動かすことで適度の運動と、違う環境で過ごすことによる気分転換で、食欲旺盛です。このことが元気の源かと思うのですが……。

さて、丈夫な身体づくりに関しては、理学療法士を月一回お招きし、アドバイスを受けながら、機能訓練を行っております。

利用日の、限られた時間ですが、午後に行う集団メニュー訓練と、一日を通して行う個人メニュー訓練を実施し、身体機能の維持・向上（特に下肢筋力強化）を図っており、身体が軽くなった等好評です。

そして、デイサービス年間行事の、七夕の短冊には、やはり、元気がテーマのお願い事が多かったことが、印象的でした。

この夏も、猛暑が続きます。熱中症予防対策を十分に行いながら、無理せず機能訓練を行い、夏バテをしない、転倒も無い、丈夫な身体づくりを目指し、安心して、一日を過ごしていただけるよう、努力して参りたいと思います。

現在、帰りには、「今度、明日来るよ、あさってくるよ」と。次回の利用日を楽しみに、伝えて帰る人が目立ちます。次回も、皆様の笑顔が生まれるような、サービス提供が出来るよう心掛けたいと思います。



有料老人ホーム 望みの門ハイム 日常生活の充実と、各種支援サービスについて

介護員 渡邊 恭伸

望みの門ハイムでは、入居者様が快適で日々充実した生活を送る為のお手伝いとして、様々な生活支援サービスを提供しております。買い物や外出の送迎から通院の付き添い、掃除・散髪などを始めとして便利屋の仕事まで……入居者様の御希望に合わせたサービスを提供しております。中でも特に御好評をいただいているのが、月二回実施している「買い物送迎無料サービス」です。交通の便が悪い富津では、買い物に出かけるのも一苦勞。特に自炊されている入居者様にとっては致命的の為、近隣のスーパーやホームセンターまで無料送迎を行っております。

また、お花見や納涼祭、敬老会などの季節の行事を始め、昼食外出や誕生会等の外出を毎月最低一回は企画しております。他にも、ハイム庭園に完成したゲートボール場で毎月開催されるゲートボール大会、センター長渾身の作である特製回転式流しそうめん器を使った昼食会、ハイムの菜園で採れた野菜の収穫祭など、庭園で行われる行事も盛り沢山です。時折、ゲートボールの練習に励む入居者様の姿もみられ、入居者様の健康推進・運動不足解消に役立っております。

菜園で収穫した野菜は、毎日の味噌汁の具材にもなっており、好評をいただいております。また、七月に完成した庭園の藤棚は広い

木陰をかもしだしだし、休憩や昼食にも最適です。八月末には夕方から納涼祭も企画しており、バーベキューや花火、スイカ割りなど、盛大に行う予定です。

今後、入居者の皆様が毎日無為に過ごすことなく、充実

した生活を送り、心豊かに過ごして頂けるよう、様々な催しや支援サービスを積極的に行っていくと共に、入居率一〇〇%の早期実現を目指して尽力して参りたいと考えております。



知的障害者通所授産施設

望みの門新生舎

潮干狩り2011 大漁の夏

作業指導員 山本 朋美

まだ梅雨明け前の不安定な天候が続いていた七月二日(土)。新生舎では毎年恒例の潮干狩りを行いました。例年では六月に土曜日の余暇活動として実施していましたが、六月は大潮に当たる土曜日が無く、七月二日当日となったわけです。

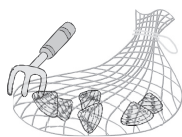
三、四日前からの予報では曇り雨。利用

者や家族から天候を心配する声も多く寄せられていましたが当日は風もなく穏やかな曇り空。晴れて暑くなりすぎても困るので丁度良い天候でした。予定していた利用者が全員出勤し、早速準備に取りかかります。前日から準備品のリストを配布し、自分で準備できる人はなるべく自分で準備する。親に全部やってもらおうことのないようにと話しをしていました。潮干狩りといっても用意する物は意外に多く、濡れても良い靴・タオル・ビニール袋・帽子・飲み物・着替え一式等々、となります。全てを自分で準備してきた人はほんの数人だったようです。

ともあれ全員でバスに乗り込み富津海岸に向けて出発。会場は朝から大変な賑わいでしたが東日本大震災の影響か昨年よりも人手が少ないように感じました。さて、いざ出陣。新生舎の目印となる大きな黄色い旗を先頭に沖へ沖へと進みます。まだ誰も掘っていない場所からねらいを定め一斉に潮干狩りのスタートです。右手の熊手で掘っては左手で探るという職人のような技を持つ利用者もいれば「あっ、カニがいた。」「ヤドカリ見つけ。」などと夏の海を満喫する人も……。そのうち「ハマグリだーっ。」の一声でみんなの闘争心に火がついた。「あった。」「俺、二個目ーっ。」渡された網袋がどんどん膨らんでいくではありませんか。約一時間半ほど潮干狩りを楽しみましたがみんなで岸に上がってその量の多さにビックリ。業務用の大きな樽に入れて二杯分。推定七〇kgはあるうかという大漁となりました。帰りまでに均等に分

けてそれぞれが袋いっぱい詰まったアサリを自宅に持ち帰りました。翌週の月曜日、出勤してきた利用者全員が「アサリご飯とみそ汁。」「酒蒸し」なかには「焼いた?」という声も。」「お母さんビックリしてたよ。」と嬉しそうに報告をしてくれました。「今度はジャンプとサマーキャンプだね。」とすでに次の行事に思いは膨らんで楽しみにしている利用者の声。

「作業も頑張ってたみんなでやろうね。」と返すと、「ハイ。」と大きくうなずいて作業に取り組み姿は見えていてとても清々しいものです。



親睦旅行

一体型共同生活介護事業所 グレースホーム

世話人 藤崎 美智

例年よりも早く梅雨明けし、真夏の日差しが照りつける季節が到来しました。梅雨の時期には洗濯物が乾かず、お日様が恋しいと思っていましたが、気温が高い日が続くと思わずにうんざり。特に夜間は寝苦しい夜になっていきますので、利用者の健康を考えると設定温度を高めにしたがらのエアコンは欠かすことができません。今のところは体調を崩す方もなく、全員元気で生活を送っています。

さて、グレースホームでは例年、七月の初旬に夏季親睦旅行を行っています。昨年は一名が入院していたため、全員の参加とはいきませんでした。

が、今年は七月二日から一泊で養老溪谷の滝見苑へ、全員で行って行くことができました。

震災の影響なのか、昨年よりもお客さんも少なく、昨年よりゆったりとした旅行になりました。また、今年の旅行はサブラ



イズを準備した旅行になっています。

このサプライズとは、去る五月二十五日に法人の創立四十九周年の式典のなかで、グレースホーム利用者の山下裕佳理さんが勤続十年、牧野ひとみさんが勤続七年の永年勤続表彰されたことから、この親睦旅行のなかでお祝いをすることを企画したことです。現在、山下さんは新生舎の作業指導員補助として、牧野さんは楽生園で介護員補助として働いています。グレースホームの利用者が永年勤続の表彰を受けるのは初めてのことで。また、この二名に加えて佐藤早苗さんも、富津漁港近くの食堂で働いて十五年になります。

このようなうれしい出来事があり、グレースホームとして全員が一同に会する親睦旅行のなかで、お祝いしようと計画を立てました。宴会で三橋管理者からそれぞれの方を紹介していただき、プレゼントを渡していただきました。このことを三名は知らされていなかったため、思いがけなかったのかびっくりした表情を見せていましたが、牧野さんからお礼の挨拶があり、世話人を囲み記念写真を撮りました。

就労を継続することは簡単なことではなく、現に今まで様々なことがありました。グレースホームの世話人はもちろんのこと、就労先の皆さんにも支えていただくことで働き続けることができたと思います。これから周りの方々に支えられながら、元気で働いてほしいと願っています。

無事に親睦旅行を終えたグレースホームですが、これからはお盆の帰省や残留者昼食会

などが予定されています。今年は猛暑と予想されていますが、暑さに負けず、元気で生活ができるようにと願っています。

地域活動支援センター 望みの門ヨカデイスサービスセンター ヨカデイスサービスセンターに着任して

指導員 岩切 栄子

連日うだるような暑さが続いております。「おはよう」と言う利用者の元気な声が響き、ヨカデイスの一日の始まりです。手洗いを済ませお茶を飲んで静かにバイタルチェックの順番を待つ人、熱烈な巨人ファンで勝敗を伝えに来る人、昼食のメニューを聞きに来る人、塗り絵やビーズ通しを楽しむ人、ささいなこと大声を出す人、壁に貼っている歌詞を見て小声で歌っている人、と様々な形で楽しみの一つである入浴の順番を待ちたりもしています。

ヨカデイスサービスセンターでは各市町村との契約により、障害者自立支援法に基づき利用者の生活上のため、日常生活の支援を行っています。支援するうえで必要なことは、支援する側と支援される側との意思疎通であり、信頼関係を築くことだと思います。しかし四月に着任した当初は、日々の仕事をこなすのが精いっぱい、信頼される支援には程遠いものでした。

ある日「散歩に行こう」との声があり出かけました。心地よい風に吹かれ近隣の花々を愛でながらの散歩は楽しいものでした。「どこ

からきているの?」(子どもは何人いるの?)
「お盆には墓参りに帰るんだ」とか其々一方的に話しかけてきます。時間にすると往復三〇分程度のものでしたが、毎回コミュニケーションを取ることで、利用者の様子が徐々に分かるようになってきました。

人は誰でもおいしいものを食べ、好きなことをして暮らしたいと願うものです。

ヨカデイの利用者も食べることが大好き! 一日に何度か「〇〇を食べに行きたい」「〇〇の店で〇〇まるが食べたい」と言いに来ます。数日かけて希望を聞くと、その都度食べたいものが変わり、一番人気のあったのが、お寿司でした。

六月は外食として近くのお寿司屋さんに園長の運転で行ってまいりました。トロリととろけるマグロの握りに舌鼓を打ち、帰ってはカラオケで自慢ののどを披露し大満足の食事会であり幸せなひと時だったのではないでしょう。

ヨカデイに着任して三カ月目私自身も多くの人に支えられ働けることに感謝し、ヨカデイに来る人たちの気持ちの分かるお世話を目指し頑張りたいと思います。



千葉県中核地域生活支援センター 君津ふくしネット 支援から支縁へ

障害者グループホーム等支援ワーカー

桐谷 陽子

障害者グループホーム等支援事業は千葉県独自の制度であり、平成十六年に始まった中核地域生活支援センターに引き続き、平成十七年に始まりました。

障害のある人も地域の中でその人らしく暮らすことのできるホームづくりと地域づくりがミッションであります。

君津圏域では、二十五事業所一〇〇住居のグループホーム等に四四七人の方が、暮らしています(平成二十三年六月一日現在)。君津圏域は千葉県の中でも、グループホーム等の住居数と定員が一番多く、NPO法人の活躍が目覚ましい圏域であることも特徴の一つです。大半が知的障害者の方の応援をするホームで、精神障害者の方と身体障害者のかたの応援をするホームも数か所あります。

障害者のグループホーム等は民家を借り上げて運営していることが多く、違和感がなく街並みに馴染んでいるので、車で通り過ぎてしまうことも多いです。しかし徒歩圏内の近所付き合ひの中には、施設や長期入院では味付けの異なる、出逢いやトラブルがあります。

以前は地域で生活をするのだから近所に迷惑をかけないことが大切であると思っていたのですが、迷惑から始まる地域生活もあるのかなと最近は思っています。

障害者グループホーム等支援ワーカーは、普及啓発のイベントや研修の企画運営、新規開設支援、ケースワーク等外出する機会が多く、日々たくさんのお出逢いや学び、感動や動揺の場面があります。

障害者グループホーム等支援ワーカーになつて気づいたのは、『支援ではなく支縁』という発想です。

まとまりませんが、今後ともよろしくお願ひします。

児童養護施設 望みの門がずさの里

望みの門がずさの里に就いて

角田茉莉海

私はこの四月から望みの門がずさの里に勤務しています。高校時代から希望していた児童養護施設に就くことができ、大きな期待を抱きながらも、最初の内は不安でいっぱいでした。

三ヶ月が過ぎ、子どもたちとは一緒に笑い合ひ楽しく過ごすこともあれば、時には衝突し、互いの思いをぶつけ合うこともあります。幼児から高校生までの子どもたちと接する中で感じるのは、年齢が子どもたちと近いことでのメリット、デメリットです。

子どもと過す中で、きちんと叱ることが求められる時に、上手く子どもに伝えられず子どもと私自身との関係性に戸惑い、悩んだこともあります。信頼関係を築くことの難しさを日々実感しています。けれども、子どもと

の他愛もない会話や、日々の成長を身近で感じることも、私自身の喜びでもあり、自信にも繋がります。今、私自身に出来ることは何か、また何が課題なのか、自問自答の毎日です。心がけているのは、子どもたちの小さな変化を見逃さない「気づき」です。一人ひとりをきちんと受け止めていけるように、まず私自身が成長しなければと考えます。自分の望んだ仕事に就けたこと、子どもたちの大切な暮らしに携われていることの喜び、責任を常に心に留め、努力したいと思っています。



乳児院 望みの門方舟乳児園 新しい家族を迎え入れるということ

園長 佐野 毅

方舟乳児園で一年余にわたりお預かりしていた双子の幼児さんを、この七月に養子縁組をして、新しい御家庭に迎え入れていただくことになりました。養親さんは、方舟乳児園の前園長で、現望みの門学園園長の田尻隆氏ご夫妻であります。

田尻氏は、方舟乳児園の初代園長として就任以来、子どもたちのことを我が子同様にこよなく深く愛しておられました。特に、この

双子の姉弟については、実親さんとの関係が芳しくないことから、この子たちの将来を案じ「将来は、田尻家の養子として引き取り育てたい」と、昨年四月に私が園長職を引き継いだ頃から相談を受けておりました。

望みの門といたしましても、乳児園の子どもを法人職員の家庭に養子縁組させる、という手続きは全く初めての経験でしたので、果たしてこちらが望んでいるように事がうまく運ぶのだろうか、と些か不安もありましたが、田尻氏ご夫妻の熱意に押されて、手探り状態の中から、児童相談所や家庭裁判所、法務局等の関係行政機関を東奔西走いたしました。

神様の御加護もあって、約半年の期間をかけて、このたびようやく養子縁組が成立いたしました。

全くの他人であった二人の子どもを、これからは我が子として育てていこう、という田尻氏ご夫妻の並々ならぬ情熱には本当に頭が下がります。改めて田尻氏ご夫妻には敬意を表すると共に、二人の子どもたちには是非とも幸せになってほしいと願うばかりです。

さて一方で、我が国の「社会的養護」の現状を顧みますと、乳児院や児童養護施設に措置される子どもたちの数は年々増加の一途をたどっています。

それには様々な原因が考えられますが、ひとつには、核家族化やひとり親家庭（父子家庭、母子家庭）の増加の問題、ならびに地域社会の中で、子育て中の母親（父親）をサポートする態勢が脆弱であることの問題が挙げられます。

今や、高齢者の孤独死をいかに防ぐか、という問題と、子どもを虐待からいかに守るかという問題は政府を挙げて国民全体で緊急に取り組むべき緊急課題であると思います。それは、人としてこの世に生を受けた方に対する尊厳を守るといって、全人類必須の問題であるからであります。

私たちは、この世に生まれてきた子どもたちみんなが幸せな人生を送れるように、微力ではありますが、日々の活動をとおして社会貢献していく所存であります。

私たちの師マザーテレサの言葉「どんな大海も、一滴の水の集まりである」、との言葉を日々の実践の糧としています。



編集後記

常務理事より「中核地域生活支援センター」「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」についての巻頭言を頂いた。多くの方々の献身的な働きによって誕生した千葉県の宝を全国に証していく責務が私たちにあります。

(T2)